

第二章 社屋の新築

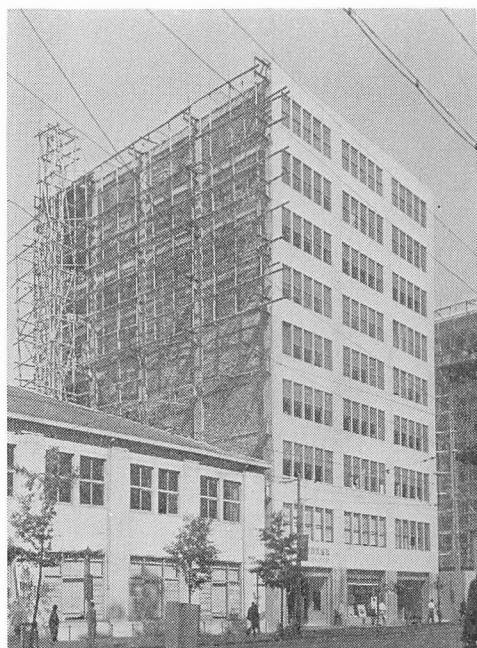
一 本店本建築竣成

昭和二十七年十二月八日に現在の本店鉄骨鉄筋コンクリート九層の建築は完成した。この事業は、昭和二十一年、木造社屋建設の当時から、当時取締役であった司 忠社長の胸中にあった。

日本橋の本店は大正大震災ののち昭和二十年五月、戦災で焼失して了うまで木造であったが、このために疎開させられ、また戦災にも遭った。今後はどんなことがあっても鉄筋でなければならぬ。終戦以来の政治・経済・社会の混乱のなかで、社員に希望を抱かせるためにも、内外に本社の基礎が磐石であることを知ってもらうためにも立派な本店社屋を建築せねばならない。このような考えから、昭和二十三年、清水建設に相談し、地下二階・地上九階の本店ビル建築を決し、同年中に計画を立てて設計図を決定した。この設計図決定にあたって司社長は、建物の構造・外観の決定に、全く寝食を忘れた如くであったと、工事担当の某技師は語っている。司社長は、昭和二十四年に入ると、建築に必要な鉄材購入に奔走して、同年末には必要な鉄材を一トン一二、〇〇〇円乃至一四、〇〇〇円で購入を完了した。その直後にこの種の鉄材はトン当り七万―八万円の高価になっていたという。

かくて昭和二十四年十二月、取締役会を開き、清水建設との間の、本店第一期新築工事契約締結の件を決定した。

第一期工事は、現在の本店社屋の北東部窓三ツの部分九階までである。それは全敷地面積一、二二四・〇九平方メートルの内三分の一強の四五六・八二平方メートル（一三八・一九坪）、九階までの延面積五、一七九・四〇平方メートル（一、五六六・七七坪）であった。工事着手は昭和二十五年七月二十五日、その竣工は、翌二十六年九月十八日であった。



日本橋本店第一期工事

続いて残りの第二期工事を昭和二十七年一月十五日に着手、同年十二月八日に竣工した。第二期工事は完成した第一期工事に続く窓五ツ分九層で、建築面積七六七・二七平方メートル（二三二・一〇坪）、延面積八、八四八・五〇平方メートル（二、六七六・六六坪）であった。

岸田日出刀工学博士は、この建物について、建築設計家の立場から、好意ある批評を「学鑑」昭和二十九年二月号に寄せられた。その要点は、第一に外観から見て申分ないこと、第二にこれみよがしのデザイン上の作為があまりないこと、第三に外壁が柱の外側につき壁が一面平滑で窓がポカリポカリと開けられ、部屋の床面積をすこしでも広く使用し得ることを指摘、



日本橋本店社屋

単調の美を充分にしたものであると、褒めて下さった。

司 忠現会長は、この建築について「私の履歴書―司忠」の項で次のように述懐している。

小売店のくせにデパートまがいのビルを建てたわけだが、それについては私なりの計算があった。本屋という商売はどだいそんなにもうかるものではない。資金を半年も一年もねかせておいたりするのは常識だから、なんとか日銭をかせぐ方途を講じなければならぬ。そのためには大きなビルを建て、あまったところを貸し室にすればいい。協力金もはいるし、家賃収入もあるから配当ぶんぐらいは浮くだろう。そうなれば営業のほうはトントンでも株主に迷惑をかけるにすむと考えたのである。

当時は、まだビルもない時分であり、東京では丸善が戦後初の鉄筋ビルだったから、このアイデアはいけると思った。はたしてこれが図に当たった。その後貸しビルは方々にふえたが、戦後その先鞭をつけたのは丸善ビルだった。

二 淡路町ビル新築

昭和二十九年十一月二十五日、臨時取締役会において、千代田区神田淡路町二の五の三に淡路町ビル新築を決した。その敷地として永楽不動産株式会社所有地を賃借した。建物は鉄筋コンクリート造三階建、延面積三六三・五〇平方メートル（一〇九・九六坪）、総工費一、一〇〇万円、清水建設の施工で昭和三十年五月竣工した。このビルは子会社の丸善製品販売株式会社、株式会社丸新縫製所が使用した。

三 支店・出張所の整備

昭和二十五年までに、当社は支店・出張所の店舗の修復・整備を一応整えたのであるが、その後の経済の回復と市場の変化は、多くの支店で、店舗改造の必要を生じた。そこで、本店建築の遂行と同時に、支店の新築・改造、出張所の新設を躊躇なく進めた。

(一) 神田支店の廃止

昭和二十七年十月末日、神田支店を閉店した。本店の第二期工事も竣成して売場も広くなったためである。大正九年十月一日以来当社の支店として親しまれてきたが、三十有余年の歴史を閉じた。一時、東京都民銀行のあったところが、その位置したところである。

(二) 東横店と伊勢丹店の開設

昭和二十九年十一月、東京渋谷の東横百貨店六階に丸善東横店を開いた。洋書及外国雑誌の現金販売を行うこととなったが、所管は本社の店頭販売部とした。

越えて、昭和三十年二月十日に新宿の伊勢丹百貨店六階に丸善伊勢丹店を開設した。目的・所属とも丸善東横店と同一であった。

(三) 横浜出張所の廃止

昭和二十九年十月十五日には、横浜市港北区日吉駅前にあった横浜出張所を閉鎖した。位置が偏っていたため業績が挙げがらず、適当な営業地が見つかるまで、一時閉鎖するほかなかったのである。

(四) 札幌支店の改築

札幌支店は、前述したように元札幌繊維製品小売業組合所有の建物を買取り、改造して営業してきたが、業務の発展とともに年一年と手狭で不便になってきたため、支店の方からも、屢々改築を希望していた。

そこで昭和二十八年五月十六日の臨時取締役会において札幌支店改築工事の件を決定した。要点は次のようであった。



札幌支店

九年六月二十二日であったが、工事もほぼ完成に近づいていたので、二十八年十一月から準備を進め、十二月一日から新社屋で営業を開始した。なお、昭和三十年に五階の一部を、東和映画、北海道放送、朝日物産に、地階を木村実業に賃貸した。その後地階を除き賃貸は廃止した。

(五) 大阪支店梅田出張所開設

大阪支店では、昭和二十八年四月一日から、梅田出張所を開設した。これは梅田駅西南側に、阪神電鉄が建設した新阪神ビル一階東側入口の床面積一三五・五三平方メートル（四一坪）を借受けて開設したものである。開設後三年間は、なお大阪駅前には復興建設が盛んに行われていた頃で、新阪神ビル付近は置去られたような状態で、出張

イ 鉄筋コンクリート造地下一階・地上五階建

延面積二、一一七・七九五平方メートル（六

四〇・六三坪）とする。

ロ 建築費用は七千万円とする。その資金は増

資と借入金を用いてあてる。

ハ 清水建設北海道支店の請負とする。

なお、工事中の仮営業所の増改築（一七八・二平方メートル）も清水建設北海道支店が請負った。

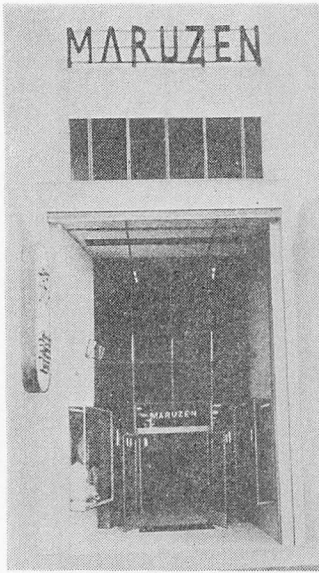
着工は昭和二十八年五月二十三日、竣工は翌二十

所も業績を挙げるのに苦勞したという。

これより少し前、昭和二十八年三月二十七日、大阪ビル売店を閉鎖した。しかし、一方で同年十月、大阪府立大
学学生厚生施設として堺市百舌鳥梅町四丁目八〇四の百舌鳥学舎内に売店を開設した。

(六) 神戸支店再設

昭和二十年六月五日、米軍機の爆撃により焼失した神戸支店は、その後大阪支店管轄下の出張所となり、ついで
て本社直轄の出張所として神戸市多聞通りの仮営業所で復興の第一歩を踏み出していたことは既に記したとおりで
ある(本書一、一四六頁)。いうまでもなく当社は、機会があれば支店に昇格する意を蔵していた。たまたま、同
出張所には中田正雄が営業係長、続いて同出張所長(昭和二十四年三月)として在勤していたが、中田は、神戸出
張所百年の計画として、恒久的固有の店舗の必要を痛感し、その目的達成のために罹災した元町売店跡及其の裏地



神戸支店

の買収に全力を尽した。当時は戦後の混乱期で第三国
人の妨碍等もあって、買収には苦心をしたという。本
社は中田の報告に基づいて、昭和二十六年一月四日に
取締役会をひらき、元町一丁目裏通りの土地合計二一
九・八三平方メートル(六六・五坪)を買収することを
決定した。そして同地整備の後、昭和二十七年十二月
十五日清水建設大阪支店の施工で、神戸出張所を新築

することを決定、昭和二十八年一月二十日起工、同年六月二十九日竣工、七月一日から開業した。この建物は鉄筋コンクリート三階建、一部一階平家建、延面積八〇〇・四一平方メートル（二四二・一二五坪）、総工費一、八三〇万円を要した。当社は、正式には九月から同出張所を神戸支店と呼ぶことにしたが、内部的には七月一日より神戸支店と呼称、同日、中田正雄を初代支店長に任命した。

(七) 広島出張所開設

終戦前、広島为中国書籍販売会社に当社より社員を派して、当地の書籍販売に努力してきたが、昭和二十年三月、同社の解散と同時に社員を引き上げたまま、戦後の十年近くが過ぎた。当社が再び同市に出張所を置くことになったのは、森戸辰男広島大学学長の熱心な要望があったからである。そこで、広島市鉄砲町一四五番地、寿屋ビル二階一室八三・九六平方メートル（二五・四〇坪）を賃借し、諸般の準備を整えて昭和二十九年五月一日開店した。洋書・当社出版物・文具・事務機械を取扱った。大阪支店の管轄下で後年、広島支店に発展した。

(八) 岡山出張所開設

昭和二十六年六月一日、姫路支店岡山地方販売係を岡山出張所に昇格し、岡山市上之町五〇番地の薬業会館内に事務所を設置した。昭和二十九年八月一日には、この出張所を姫路支店から分離して、支店扱いとし、それまで大阪支店管轄の四国四県をその管轄に移した。

(九) 長崎支店の縮少

長崎支店は、昭和二十九年九月一日長崎出張所に縮少し、再び福岡支店の管轄に入った。

支店長任期表

支店名	年次									
	神田支店	札幌支店	仙台支店	長崎支店	福岡支店	姫路支店	神戸支店	京都支店	大阪支店	名古屋支店
石川万介	伊達研三	上田憲治	小林俊亮	杉健	松本勝二		北川生次	西土春次	佐藤五夫	昭和二十七年
十・末閉鎖							田口 四・十五 麟			昭和二十八年
										昭和二十九年
		石川万介 十一・八	八・一出張所となる		八・一出張所となる	中田正雄 八・一	小林俊亮 七・二十	上田憲治 十二・八		昭和三十年

こゝに支店長の任期をあげるのは適當ではないが紙面の都合で表としてあげておきたい。